

1. 単元名 「はっけん！ ぼく わたしのおしごと」

2. 単元について

本単元は、生活科学習指導要領の内容（2）「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」を受けて指導するものである。ここでは、子供たちが家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返り、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うようになることを目指している。

家庭は子供たちにとって最も深いかかわりを持つ生活の場である。しかし1年生の子供たちにとってあまりに身近すぎるため、自分のために色々なことをやってくれるのは当たり前だと感じ、特に意識することなく過ごしている。本単元では、まず子供たちが関心を持てるようにするために、校内で上級生が行っている仕事を見つける。その後で家庭にはどんな仕事があるか、誰がしているのかを見つける活動をする。家庭の中の役割分担や手伝いは家族みんなが楽しく生活をするためにあるということに気づくため、家族が行っている仕事の中から自分にもできそうなものを選び、チャレンジしていく。チャレンジ期間終了後、家族のために役立つ仕事を決め、毎日続けてみようという気持ちを持ちながら自分の仕事として家族に宣言をする。これらの活動を通し、家族の一員としての自分に気づき、家族のために自分ができることを進んで行おうとする気持ちを育てたいと考え本単元を設定した。

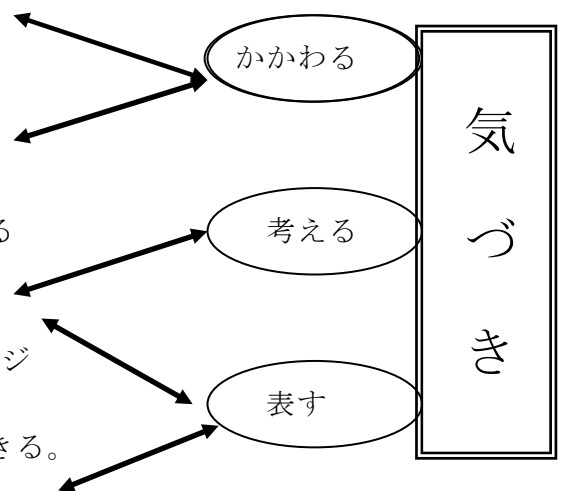
家の中にある様々な仕事について家族に聞いたり、様子を観察したりし、自分のできそうなものを見つける。自分で決めた仕事を続けることを通して、家庭での自分の役割の大切さに気づかせたい。そのために取材・探索能力と役割把握能力を育てていくことを重点とする。

3. 単元のねらい（●キャリア教育のねらい）

●家庭生活を支えている家族のことに気づき自分にもできることはないか考え、自分の仕事を続けていこうとする意欲を育てることができる。

<本単元とキャリア発達能力とのかかわり>

- 人間関係形成能力
  - ・友達と協力して活動する。
  - ・ゲストティーチャーと進んで話す。
- 情報活用能力
  - ・家の仕事を発見する。
  - ・発見したことを「お仕事シート」にまとめることができる。
- 将来設計能力
  - ・自分ができる仕事を考え、「お仕事チャレンジカード」に書くことができる。
  - ・家庭の中の自分の仕事を見つけることができる。
- 意思決定能力
  - ・自分で決めた仕事を書き活動することができる。



#### 4. 指導計画（10時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
○校内で仕事探しを行い「お仕事発見メモ」の書き方を理解する。 ・学校のために働いている上級生の写真を見る。 ・「お仕事発見メモ」の使い方を理解する。 ・仕事を探しメモに書く。	2	○	◎		
○家庭でも家族のために仕事をしている人はいないか話し合う。		○			
○家庭の中にある様々な役割を見つけ、「お仕事発見メモ」を書く。	家庭				
○ミニ報告会をする。	朝の会				
○「お仕事発見メモ」をカードに分類する。 ・仕事の内容を書く。	1		◎		
○「お仕事シート」にカードを貼りまとめる。 ・グループで「お仕事シート」をまとめる。	2	○	◎		
○自分のやってみたい仕事を考え、1回目の仕事を「お仕事チャレンジカード」に書く。 ・仕事を選択する。 ・「お仕事チャレンジカード」に書く。 ・ゲストティーチャーに話をする。	1	○		◎	○
○「お仕事チャレンジ期間」に自分の決めた仕事をする。	家庭				
○1回目の感想をグループで報告しあう。 ・感想を話す。 ・感想をまとめる。	1		◎		
○2回目の「お仕事チャレンジカード」を書く。 ・仕事を決め「お仕事チャレンジカード」に書く。 ・ゲストティーチャーに活動の内容を話す。	1 (本時)	○		◎	○
○「お仕事チャレンジ期間」に、自分の決めた仕事をする。	家庭				
○ミニ報告会をする。	朝の会				
○2回目の感想をグループで報告しあう。 ・感想を話す。 ・感想をまとめる。	1		◎		
○2回の「お仕事チャレンジ期間」を振り返り、自分ができると決めた仕事を「お仕事宣言カード」に書く。	1			◎	○
○家族に「お仕事宣言カード」を渡し宣言する。	家庭				

5. 本時の指導（8／10）

(1) 本時のねらい

○自分ができる仕事を決め、2回目の「お仕事チャレンジカード」を書くことができる。

(2) 展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
3	1. GTとあいさつをする。 ・「よろしくねあいさつ」をする。 ・お仕事列車を歌う。	・教室の前面に集まり，楽しくGT（ゲストティチャー）と過ごせるようにする。 ・和やかな雰囲気作りをする。	
7	2. 前時の内容を振り返り本時のめあてを確認する。 ・全体で前時に発表しあったことを振り返る。 ・めあてを確認する。	・感想をまとめた掲示物を提示して，前時の話し合いについて振り返りやすくする。	感想をまとめた掲示物
	2かいめの おしごと チャレンジカードをかこう。		お仕事シート
15	・カードの書き方を確認する。 3. グループに分かれて2回目の「お仕事チャレンジカード」を書く。 ・チャレンジする仕事を決めカードに書く。 ① 仕事の名前 ② 仕事の内容 ③ 理由	・拡大したカードを示しながら書く観点を確認できるようにする。 ・2～3人組みのグループに，GTが1～2人ずつ入るようにする。 ・仕事の様子を表したカードを各グループに用意する。 ・T2は特に迷っている子どもに問いかけをし，考えていることを引き出せるようにする。 ◇自分ができる仕事を決め，2回目の「お仕事チャレンジカード」を書くことができる。→【将来設計能力】 ・お仕事絵カードを提示し，できそうな仕事を選べるようにする。	拡大したお仕事チャレンジカード お仕事チャレンジカード
10	4. 書いたことをGTに話す。 ・チャレンジカードに書いたことをGTに話す。 ・GTの感想を聞く。  ・チャレンジする仕事について発表をする。	・話すめあてを確認し自信を持って話ができるようにする。 ・GTには話の内容を認めたり，修正の必要などところのアドバイスをしてもらったりするようにする。 ・GTの感想を子どもに確認し，ほめられたことなどをより実感できるようにする。	お仕事絵カード
10	5. 本時の学習を振り返る。 ・GTの話聞く。 ・感想を発表する。 ・「ありがとうあいさつ」をする。	・話がよく聞けるように，教室の前面に集まるようにする。 ・意欲的に発表した子どもを指名し認め励ます。	

多古町立多古第一小学校

## 小学1年 国語科学習指導案

### 1. 単元名 「めいしでじこしょうかいしよう」

### 2. 単元について

二学期最初の単元で、夏休みの出来事を中心に自己紹介を行う単元である。一学期の生活を共にした仲間ではあるが、親しく遊ぶ友達もいれば、まだ十分付き合いしていない児童もいる。「自分のことをもっと知ってもらって、みんなが仲よしになるために、『めいし』を作ります。この勉強が終わったときには、『話したことのない』友達がいなくなるといいね。」と話せば、単元の趣旨は理解されることと思う。

この時期の子どもたちの様子は「おしゃべりはできるが、順序だてて話をすることができない」「早口であったり声が小さかったりする」という話し手としての問題がある。また、聞き手としては「話の中から、大切なことを落とさずに聞く」ことが十分とは言えない。コミュニケーションの基本である「相手の目を見て話す、聞く」ことができない児童が多い。そこで、集団の中でのコミュニケーションや豊かな人間関係を形成していくためには、自分のことを相手に分かりやすく伝え、友達の話をしっかり受け止めることが大切である。そのために、実際に役割演技等を体験させて、その必要性に1年生なりに気づかせる活動を大切にしていきたい。

単元では「めいし」を作り、自己紹介をするという目的があるので、意欲をもって学習に取り組めるものと考えている。個々に話すことを考えさせて、「めいし」を書く時間を十分に取ることにより、「もっと自信をもってうまく話したい」という気持ちをもたせたい。

### 3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 自己紹介の仕方を知ることができる。
- 相手や目的を考えながら、書くことができる。
- 書こうとする題材に必要な事柄を集めようとするすることができる。
- 相手にわかるように終わりまではっきり話すことができる。
- 相手の話に興味をもって聞くことができる。
- 話すことを書いて、自己紹介の準備を進めることができる。
- めあてをもって活動することができる。

### 4. 指導計画（8時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
学習のあらましをつかむ	1		○		
「めいし」を作成する	2		◎	○	○
「めいし」を交換して、自己紹介し合う	1	◎	○		○
自己紹介を楽しくする秘密を見つけよう（本時）	1		○	◎	
さらに工夫した「めいし」を作る	1		○	○	◎
「新めいし」を交換し合い、自己紹介し合う	1	◎	○	○	
よかったところを見つけ合う	1	◎	○		

## 5. 本時の指導（5／8）

### (1) 本時のねらい

- 伝えたい内容を「めいし」を使い、的確に相手と話をすることができる。
- 「じこしょうかい」を楽しくするためには、相手の顔を見るだけでなく、うなずきや笑顔も大切なことに気づき、活動に生かすことができる。
- 自分はどんな所を直せばいいか気づき、課題をもつことができる。

### (2) 展開

時配	学習内容と活動	・支援, 指導上の留意点 ◇評価	資料等
5分	1. 前時の学習を思い出し, 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     じこしょうかいをたのしくするひみつをみつけよう。                 </div>	・「やくそく」を掲示する。 [はっきり話す・ていねいに話す・最後まで聞く]	掲示物
10分	2. 友達の「じこしょうかい」の様子を見て, 話し方や聞き方について話し合う。 〈予想される意見〉 ・はっきりした声で話している。 ・相手をよく見て話している。 ・ていねいに話している。 ・最後まで聞いて, 質問している。 ・笑顔で話すとなしくなると思う。 ・うなずくといい。	・代表児童の発表の言い方, 聞き方, 表情に注目させる。 ・いいところや感じたことを, 発表させる。 ・「やくそく」を守らせる。  ◇友達の「じこしょうかい」のよいところに気づくことができたか。 →【自他の理解能力】	
10分	3. 相手を見て会話すること, うなずきや笑顔などの必要性に気づく。	・教師が悪い例を示し, 児童に感じたことを言わせる。 ・児童相互に役割をさせ, 感想を発表させる。  ◇あいづちや笑顔も大切なことに気づいたか。→【役割把握・探索能力】	
10分	4. 「めいし」を交換して, 自己紹介し合う。	・自分の課題を明確にさせる。 ・他の班の児童と行う。  ◇自分の課題を改善することができたか。→【課題解決能力】	名刺
10分	5. 活動を振り返る。 ・ワークシートに反省を記入する。	・課題だけでなく良いことも記入し, 意欲をもたせる。  ◇自己紹介し合いながら, 友達を知ることができたか。→【コミュニケーション能力】	ワークシート

柏市立柏第三小学校

1. 主題名 「自分が決めたこと」 1—(2)

資料名『おふろそうじ』 出典 小林陽子作 文部科学省 一部改作

2. 主題について

本主題は、指導要領内容項目1「主として自分自身に関すること。」の(2)「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」ことをねらいとしている。

児童が自立していくためには、自分がやらなければならないことはしっかりできることが大切である。そして何事にも粘り強く取り組み、努力し続けることと向上心が結び付いて、自己の在り方や生き方が自覚されてくるといえる。この段階においては、特に親や教師の賞賛の下に、この期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を、自分でやるべきこととしてしっかり行えるよう指導する必要がある。学習することや学級や家庭で様々な役割を果たすことの大切さに目を向けて、時間がかかることや大変な作業を継続することで得られる成就感から、実践意欲を高めたいと考え、本主題を設定した。

生活科の「大きくなあれ④⑤」では、落花生・きゅうり・大豆・ハーブの中から自分で一種類を選んで育て、収穫する活動を通して、植物の成長と継続して世話をしてきた自分の努力に気づかせる。「町大すき」では、自分の町を探検し、様々な場所やもの・人に出会いながら町への愛着を深める。諸感覚を働かせたり、道具を利用したりして、町のことを調べ、自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達や地域の人に知らせる。場所、もの、人という視点で自分の好きなものを探し、働く人々への興味・関心を広げていく。国語科での、「やってみたいな、こんなこと」「たからものを知らせ合おう」の話すときや聞くときの注意を、各教科や道徳、学級活動での話し合い活動に生かしていく。学級活動では、毎日一人一役の役割をもって係や班活動を行う。日直や給食当番においては、ペアになった友達やチームの中での話し合いをもとに役割を分担していく。日々の清掃活動では、分担場所の同じ友達どうしで協力し合って掃除ができるようにしている。

本学級は、1年の2学期に、道徳でお手伝いを通して「ぼく・わたしの役割」を学習している。その時の内容項目は、4—(2)で「父母、祖父母を敬愛し、進んで家のお手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」ことをねらいとした。また、夏休みや冬休み、春休みなどの長期的な休みを利用して、家庭でのお手伝いを呼びかけ、課題として取り組んできた。それは、家庭での継続的なお手伝いで、低学年のうちに勤労観の土台を築いておきたいと考えるからである。家庭生活は、学校生活よりも格段に時間が長いので、継続が容易である。また、児童の発達段階に合わせて、内容も深められるし、できることを増やしていくことも可能である。さらに、働くことの大変さや喜びを知ることにもなるだろうし、「自分でできる」ことが増えて、自信にもつながっていくと思われる。

以上のような各教科や領域の授業を積み重ねながら、「役割把握・認識能力」や「課題解決能力」の基礎を培うことで、本主題に迫れると考える。

### 3. 本時の指導（○教科のねらい，●キャリア教育のねらい）

#### (1) 本時のねらい

- 自分でやらなければならないことがあることに気づき，それらに進んで取り組もうとする意欲と態度を育てる。
- 係，当番，家の手伝いの大切さ，役割を果たす必要性がわかる。
- 自分のことは，自分で行おうとする。

#### (2) 展開

時配	学習内容と活動	期待する児童の反応	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
10	○家でのお手伝いの経験を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風呂掃除</li> <li>・食器洗い，片付け</li> <li>・食器運び，並べ</li> <li>・料理</li> <li>・洗濯物たたみ</li> <li>・妹や弟の世話</li> <li>・トイレ掃除</li> <li>・マッサージ</li> <li>・新聞や郵便物を取ってくる。 など（理由）</li> <li>・お手伝いが楽しい。</li> <li>・お駄賃がもらえる。</li> <li>・褒めてもらえる。</li> <li>・ありがとうと言ってもらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々やるお手伝いではなく，毎日続けているお手伝いや，時間をかけて取り組むお手伝いを発表するようにする。</li> <li>・お手伝いを毎日続けている児童やすぐに終わらないお手伝いに取り組んでいる児童を賞賛する。</li> <li>・大変でも，なぜ毎日続けているのか，なぜ時間がかかっても取り組めるのか，具体的な理由を話せるようにする。</li> </ul>	掲示物（アンケート結果）
25	<p>○『おふろばそうじ』を読んで，話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらの家族は，お風呂場掃除をしているあきらをどう思っているのでしょうか。</li> <li>・あきはどんな気持ちでお風呂場掃除をしているのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらのおかげで，幸せだなあ。</li> <li>・毎日きれいなお風呂に入れて，いい気持ち。</li> <li>・たいしたもん。</li> <li>・大変でも，がんばっている。</li> <li>・とても上手になった。</li> <li>・よくやってくれる。</li> <li>・ありがとう。</li> <li>・家族が褒めてくれるから嬉しい。</li> <li>・家族から感謝されるのが嬉しい。</li> <li>・家族が喜んでくれてぼくも嬉しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらと家族の顔のパネルを用意し，会話を中心に進めていく。児童をパネルに集中させるように，読み聞かせる。</li> <li>・あきらに対する家族の気持ちを話し合わせる。家族が気持ちよく過ごし，感謝し，あきらの仕事を認めていることに気づかせる。</li> <li>・家でのお手伝いや学校での掃除の体験から話し合うことにより，風呂場掃除を続けることが大変なことを感じ取らせる。</li> </ul>	パネル

10	<p>○保護者の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のためにがんばっている。</li> <li>・きれいなお風呂に入れて、ぼくも嬉しい。</li> </ul> <p>&lt;友達と遊ぶ&gt;→お手伝いをやめる。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びたい。</li> <li>・遊ぶ方が楽しい。</li> <li>・遊んでからでもお手伝いはできる。</li> </ul> <p>&lt;お手伝いを続ける&gt; (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やらないと家の人に怒られる。</li> <li>・お手伝いが終わってから遊ぶ。</li> <li>・家の人との約束の方が大事。</li> <li>・やり始めたので、やめたくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名の児童に、考えを発表させる。お手伝いをやめるか、続けるか類型化を図る。</li> <li>・お手伝いをやめる理由や続ける理由を言わせることにより、児童の本音に迫る。迷っている児童がいれば、その気持ちも取り上げる。</li> <li>・お手伝いに使命感や自信をもって取り組んでいる児童がいれば、その児童のお手伝いをしているときの気持ちを聞き、賞賛する。</li> <li>・家族からの手紙は、児童全員分を用意し、親または家族から子へ語り継ぐ機会としたい。</li> <li>・1～2人の家族からの手紙を紹介する。「楽ではないからこそ継続することが大切である」ことや「今は分からなくても大人になってから役に立つ」というような、メッセージ性の強い手紙を紹介する。</li> </ul> <p>◇自分ができるところを見つけ、それらに進んで取り組もうとする気持ちをもつことができたか。また、それらに進んで取り組もうとする気持ちがもてたか。</p> <p>→【将来設計能力・意思決定能力】</p>	<p>ネームプレート</p> <p>写真 カセット テープ</p> <p>保護者からの手紙</p>
----	--------------------	--	--	---

多古町立多古第一小学校



1. 単元名 「じゅんじょやようすを考えよう」

2. 単元について

本単元は、学習指導要領のC「読むこと」の「イ時間的順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」B「書くこと」の「エ事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。」A「話すこと・聞くこと」の「ウ身近な事柄について、話題にそって、話し合うこと。」を受けて指導するものである。

第一教材文「さけが大きくなるまで」では、さけがどのような順序で大きくなっていくかを、時や場所を表す言葉に気をつけて読み取ったり、第二教材文「生きものふしぎ図かんを作ろう」では、「さけが大きくなるまで」で学習したことをもとに、必要な事柄を集め、どのような順序で説明したらわかりやすい文章になるかを考えて書いたりしていく。このように、「順序」に指導の重点を置きながら読み深めていくことができる単元である。また、学習を進めていく中で、生き物についてのいろいろな疑問が生まれることと思われる。それについてみんなで話し合いをしていくことを通して、自分の考えを順序よく話したり、書いたりする力をつけていくことができると思う。

本単元は、キャリア発達の視点から考えると自他理解・コミュニケーション能力に重点をおいて指導することができるものである。

発達段階から見るとこの時期の児童は、いろいろなものに興味関心があり、わからないことがあるとそれについて知りたい、そして、わかったことをみんなに伝えたいと言う気持ちが強い。しかし、自分が一方的に話すことが多く、相手にわかりやすく伝えるために順序よく話したり、相手の話をきちんと聞いたりすることはまだ苦手と言える。

ここでは、さけの一生を順序よく読み取っていき、疑問に残ったことをいろいろな資料から調べ、話し合いをしながら解決をしていくのだが、自分たちでは解決できない疑問も出てくるものと思われる。そこで、魚類に詳しい糠谷さんをゲストティーチャーに迎えて、疑問について話し合いをしていく。その中で、自分の考えをみんなの前でわかりやすく話したり、友達やゲストティーチャーのいろいろな考えを聞いたりすることで、自分の考えを見つめなおし、お互いの考えを認め合えることができると思われる。そこから、友達のよさや自分のよさにも気づき、よりよい人間関係を育てていけるものと考えられる。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- さけやいろいろな生き物について進んで調べたり、話し合ったりしている。
- さけについて疑問に思っていることを聞いたり、自分の考えたことと比べながら話したりすることができる。
- さけの成長について、時間的な順序や場所的な推移を考えながら内容の大体をとらえることができる。
- 生き物についての必要な事柄を集め、その順序を考えながらわかりやすい文章を書くことができる。
- 疑問をみんなで話し合ったり、調べたことを発表したりすることを通して、お互いの考えを認め合うことができる。
- さけの成長を順序よく読み取り、そこから生まれた疑問を解決し、新たに情報を得ることにより、確かなさけについての生態を知ることができる。
- 自分の興味のある生き物について本や図鑑で調べる活動をすることによって、必要な情報を選び、順序を考えながら文章を書くことができる。

#### 4. 指導計画（25時間扱い）

主な活動内容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
○『さけが大きくなるまで』の全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを感想に書く。 ○単元全体の学習計画を確かめ、読みのめあてを持つ。	3	○			
○産卵の様子を読み取る。 ○たまごからかえり稚魚として生活するまでの成長過程を順序に気をつけて読み取る。 ○海に出たさけの様子や、海の危険さを読み取る。 ○大人になったさけの様子を想像し、卵を産みに帰ってくることを読み取る。	5	○			
○これまでのさけの学習を振り返り、さけの疑問についてゲストティーチャーを交えて話し合う。	1 (本時)	◎	○		
○さけが大きくなるまでの順序を紙芝居やすごろくに表す。 ○紙芝居とすごろくのどちらかを選び、グループごとに作る。 ○グループごとに紙芝居を発表したり、すごろくでゲームをしたりする。	4	○	○	○	
○「生きものふしぎ図かん」について話し合い、作り方や書き方を理解する。 ○「生きものふしぎ図かん」について知り、作り方、書き方、手順、計画等について話し合う。	2				○
○図鑑に載せる生き物について、調べカードに書く。 ○調べたい生き物を決める。 ○カードの書き方について知り、わかったことや図鑑に載せたいことを書く。	4		○		○
○カードをもとに組み立てを考え、絵や文を使って「ふしぎ図かん」のページを書く。 ○「ありじごくのふしぎ」の例をもとにして、書き方を話し合う。 ○前時までに作成したカードの組み立てを考えながら、図鑑のページを書く。	4		◎		
○友達の書いた図鑑を読み合う。 ○友達の書いた作品を読み合い、新しく知ったことなどを中心に話し合う。	2	◎			

#### 5. 本時の指導（9／25）

##### (1) 本時のねらい

○ゲストティーチャーを交えて、さけについての疑問を話し合うことができる。



1. 単元名 「花づくり大作戦2」(わくわくフラワーカンパニー)

2. 単元について

本校の「総合的な学習の時間」は、地域の学習素材を生かし児童の主体的創造的な学習を進めることを通して、ふるさと多古町のよさを発見し、愛着をもつ児童の育成をねらいとしている。

4月当初、児童は花への関心も高くなく、花を育てる経験も乏しかった。1学期間高校生との交流学习を通し、サルビア・ひまわりの育て方を覚え、きれいに咲いた花を喜んだり、「きれいだね」「ありがとう」という周囲の声にうれしさを感じたりしながら活動を進めてきた。世話をする活動は大変なことも多かったが、児童にとっては高校生に相談しながら花を育てるための知識を学ぶことが楽しかったり、自分たちの思いを実現できた満足感、みんなに役立った喜び(自己有用感)を感じたりした方が大きかったと思われる。児童は、2学期も花づくりに取り組みたい、お世話になった6年生のために花を育てて卒業式に飾りたいという思いを抱いている。その思いを大切にして、自分たちで考え主体的に活動させていきたい。そこで社会科の学習を発展させ、花づくりの会社員となって活動するというストーリーをたどり、一人一人が役割を明確にもって活動していけるようにしたい。

これらの活動を通して、児童に自分の役割と責任を果たすことで人の役に立つという実感をもたせたいと考え、本テーマを設定した。

1学期、花づくりを経験し、友達と協力し合って活動する力が育ってきた。2学期は更に自分たちで計画を立て、自分の仕事(役割)を責任をもってやり通すことによって6年生への思いを実現できるようにしたい。そこで、提案説明・計画修正能力、役割把握・認識能力、社会貢献意識の3点を育てていくことを重点とした。

○人間関係形成能力

- ・友達と協力し合い高校生と進んでかかわることができる。
- ・目上の人に礼儀正しく接することができる。

○情報活用能力

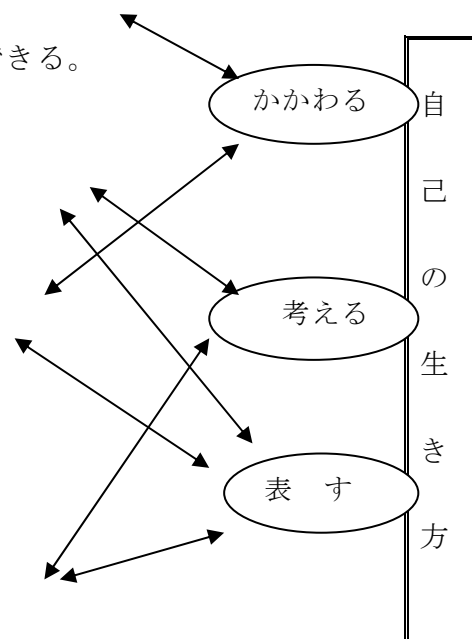
- ・花の育て方や飾り方について取材して情報を集めることができる。
- ・活動の様子をわかりやすく伝え、計画を振り返ることができる。

○将来設計能力

- ・社会科で学習した役場振興課の方の話を生かして、自分たちのできる役割を考えることができる。
- ・6年生のために役立つことを考え最後までやり通すことができる。

○意思決定能力

- ・自分にできる仕事を選び、活動することができる。
- ・活動を振り返り、次の活動に生かそうとすることができる。



### 3. 単元のねらい（●キャリア教育のねらい）

- フラワーカンパニーをつくり、高校生とかかわりながら、自分の役割を果たそうと活動することができる。
- お世話になった6年生に感謝の気持ちを持ち、育てた花を卒業式に役立てようとするすることができる

### 4. 指導計画（30時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
○花づくり大作戦について、周囲の人にインタビューしながら振り返り、これからの活動計画を話し合う。	3	○	◎	○	
○高校生に2学期の花づくり活動について目的を説明する。	2		◎	○	
社会科 「かつやくするまちの人を見つけよう。」					
○あじさい公園・コミプラ公園の探検を通して、子ども見守り隊やシルバー人材等地域でボランティア活動をしている方の活動に気づく。コミプラ公園ができた過程を地域振興課の方に質問をしながら調べる。					
○花づくりの会社をつくる相談をする。 ・仕事内容、会社の名前と役割	5		○	◎	
・苗をポットに移植する。	2			○	○
○「花を育てる」課、「飾る計画」課に分かれて計画を立てる。 ○花の育て方や飾り方について調べる。 ・調べたことを整理する。 ・高校生に伝えるための準備をする。	4	○	◎		
○高校生に計画を説明して、活動を進める。(本時)	1	○	◎		
○お互いに経過を報告し合う。	1		○	○	
○「花を育てる」課の計画を元に、プランターや鉢等に苗を移植する	2		○	○	
○「花を育てる」課を中心にして全員で当番を決めて、花の世話をする。 ・観察日記をつけて、成長を記録する。 ・6年生にプレゼントするためにしおり作りをする。					
○卒業式に花を飾る。 ・「花を育てる」課、「飾る計画」課の話を聞き、詳しい活動の仕方を全体で理解する。 ・「飾る計画」課の計画をもとに花を飾る。	5		○	◎	○
○2年生のために活動記録をつくる。 ・1年間の花づくり活動を振り返る。 ・報告書を手渡し、活動を引き継ぐ。 ○活動を支えてくれた高校生のみなさんにお礼の手紙を書く。	5	○			◎
		◎	○	○	



1. 単元名 くらしをまもる～消防士の仕事～

2. 単元について

この単元では、地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について見学したり、調べたりして人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力について学ぶ。また、学校や地域・家庭における防火・消火のための施設を調べ地図にまとめたり、訓練行事の意味について考えたりすることにより、地域や家庭における自分の役割についても学習していきたい。

中でも消防署を見学することにより、社会科として学ぶべき点だけでなく、キャリア教育の視点も広がってくる。特に今回は「自分たちの安全と命を守る仕事をする」人々と関わりながら、「どんな気持ちで仕事をしているのか」「なぜ、消防士になったのか」などの質問をすることで、仕事をする人の思いや社会への貢献についても気づくのではないかと考えている。

また、調べ学習や見学の計画作りを通して、情報活用能力や将来設計能力も高めることができる単元である。何を調べ、何を見学するのかを児童に考えさせながら取り組みたい。自らの課題をもって取り組み、そこから、また新たな課題が生まれるとう、個人が生涯にわたって遂行するさまざまな立場や役割の連鎖となるきっかけとしたい。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 消防署の見学や聞き取り調査をしてわかったことを資料にまとめたり、わかりやすく発表したりする力をつける。
- 消防署の活動や連絡・協力の仕組みの意味を早く消火するためであることと関連づけて考える力をつける。
- 消防署で働く人々の工夫や努力、消火のための連絡と協力の仕組み、火事を未然に防ぐためのさまざまな施設の働きについて理解する力をつける。
- 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る仕事に従事する人々の働く様子やインタビューなどから、仕事に対する思いを知り、職業理解を育てる。

4. 指導計画（9時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
火事の際、誰がどの様に安全を守っているかを知る	1		○		
消火の連絡や協力の仕組みを調べよう	1		○		
消防署見学の計画を立てよう	1			○	○
消防署の見学をしよう	1	◎	○	○	
見学したことをまとめよう	1		◎	○	
仕事や仕事に対する気持ちを考えよう（本時）	1	◎	○	◎	○
学習したことを整理しよう	1		○		
安全施設マップをつくろう	1		◎		
活動を振り返ろう	1				○

## 5. 本時の指導（6／9）

### (1) 本時のねらい

- 消防士の仕事は、地域の人々の安全や命を守る大切な仕事であることを理解することができる。
- 消防士の働く人としての思いを知り、自分なりの考えをもつことができる。

### (2) 展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
7分	1. 消防署見学の感想や分かったことを発表する。	・消防署見学のメモをもとに見学を振り返る。	見学メモ
3分	2. 学習のめあてをつかむ。 消防士の仕事はどのような仕事か。また，どんな気持ちで仕事をしているのか考えよう。	◇課題に即して，見学することができたか。→【課題解決能力】 【情報活用能力】	
10分	3. 消防士の仕事について，考えよう。 ①どんな気持ちで仕事をしているのか。 ②消防士はどんな仕事か。 ③消防士になった理由。	・仕事をして嬉しいことや大変なことは何だったか，思い出させる。 ・命がけで人々の生命や財産を守っていることに気づかせる。 ・なくてはならない仕事であることに気づかせる。	
10分	4. 消防士になった理由を考えてみよう。 〈予想される発表〉 ・困っている人を助けたい。 ・健康で体力もあるので，消防士に向いている。 ・勇敢な消防士の話をテレビで見た。	・いろいろなきっかけや理由で消防士になっていること気づかせる。 （見学時に複数の消防士に答えていただく） ◇消防士の考えを通して，自己理解を深めることができたか。 →【自他の理解能力】	
15分	5. 消防士の仕事について，自分の感想を発表しよう。 〈予想される発表〉 ・命がけで，とても大変な仕事だ。 ・協力することがとても大切な仕事だと分かった。 ・毎日訓練して，自分たちの生活を守ってくれている。 ・火事を起こさないように気をつけたい。	・見学で見た生の姿や，仕事への思いなどを振りかえさせる。 ◇消防士の仕事について，自分なりの考えをもつことができたか。 →【職業理解能力】	ワークシート

柏市立柏第三小学校



1. 単元名 「見方を変えて話し合おう」

2. 単元について

本単元は、学習指導要領C「読むこと」の「イ目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」「エ読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いがあることに気づくこと。」を受けて指導する説明文教材と、学習指導要領A「話すこと・聞くこと」の「ア伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」を受けて指導する音声言語教材を組み合わせたものである。筆者の考えやそれについて自分の考えをはっきりさせながら読み進め、それを参考に調べたことをポスターセッション形式で発表することでより自分の考えを明確にした言語活動が展開できる単元である。

障害者の問題を含めた社会の問題を考えていくとき、自分とは違った人を理解し、思いやることは大切である。他者の視点からものごとを捉えることが4年生くらいからできるようになる。この時期に立場の違いを考える心の幅を広げられるよいチャンスである。筆者の考えについて自分の意見を持ちながら読むことのできる教材である。

本単元は、キャリア発達の視点から考えると情報活用能力（提案説明・計画修正能力）に重点をおいて指導することができるものである。

わたしたちの社会ではたくさんの人がそれぞれの違った立場で一緒に暮らしている。立場によっては、便利なものが不便であるという筆者の考えを再確認し、体験・取材・資料などの情報をもとに、共生についての考えを深めることができるものである。読み取った情報に新たな情報を加えることで、自分の考えを修正したりもう一度練りなおしたりできると思われる。また、話し合い活動においても相手の立場に立って考えようとすることもできると思われる。

そこで、建築家で多くの家を建てているゲストティーチャーをお呼びし、誰もが使いやすい家造りをめざしている話を伺い、最近よく耳にする「ユニバーサルデザイン」についても教えていただく。便利にすることは相手の立場に立った社会作りであることなどを教えていただくことで、より筆者の主題にせまれることと思われる。

また、総合的な学習の時間の「多古町のよさを調べよう」の福祉に対しての心構えにもつながるものである。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 身の回りの便利なものや不便なものについて探そうとしている。
- 便利とは何かということを、具体例を出しながら話し合うことができる。
- ポスターセッションを通して、調べたことなどについて、筋道を立てて、話したり、話の中心に気をつけて聞いたりすることができる。
- 「便利」という意味を理解するために、内容を大きくまとめたり、必要なところは、細かい点に注意しながら文章を読むことができる。
- 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。
- 筆者の考えに対してどう思うかを意見交換したり一つの課題をどうとらえるかを話し合ったりすることを通して、お互いの考えを尊重し合い認め合うことができる。
- 読み取った内容に、新たな情報を加え、もう一度筆者の言いたいことを考え直してみることができる。
- 自分の考えをわかってもらえるように言葉を選んで伝える努力をすることができる。

#### 4. 指導計画（16時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
○写真を見て，便利について話し合う。 ・現在との違い ○単元全体の見通しをもつ。	1	◎			
○昔の暮らしと比べて便利になったことをインタビューする。	社会	◎			
○「便利ということ」の音読をし，感想を話し合う。	1	○			
○文章全体を読んで，文章の構成を大きくまとめる。	2				
○①段落～⑭段落の具体例と改良の考え方を読み取る。 ・誰にとって便利であるのかを読み取る。 ・指示語や接続語に着目してまとめる。	3	◎	○		
○お年寄りに優しいデイサービスの仕事を調べる。 ○老人体験・体が不自由な体験・車椅子体験をする。	総合的な 学習		○		
○ゲストティーチャーの話を聞き，筆者の主張に加えこれからどんなことを考えていくことがよいのか自分の言葉でまとめる。	1 (本時)		◎	○	
○身の回りにある道具や設備は誰にとって便利であるのかを聞き取り調査をする。	総合的な 学習	○	○		
○「便利」「不便」について調べたことをグループ内で話し合う。	1	○	○		
○教科書を通してポスターセッションのやり方を知る。 ・ビデオなどを通して効果的な方法を知る。	1				○
○町の福祉についてのポスターセッションにどんな内容を書きこむかグループで相談する。	総合的な 学習				
○調べてわかったことと自分の考えを区別して原稿を書く。 ○ポスターセッションをすることができる。	6		○		
○十分でないところを調べ直し，ポスター作りをする。 ○これからどんな関わりを持っていくことがよいのか更に考え，行事計画を立てる。	総合的な 学習			○	○

5. 本時の指導（8 / 16）

(1) 本時のねらい

○ゲストティーチャーの話から、筆者の主張に加え、これからの社会でどのような心構えで生活することが大事なのかを自分の言葉でまとめることができる。

(2) 展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
7	<p>1. 学習問題を確認し，自分の考えを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんながいっしょに生きるために，どんなことを考えることが大事だろうか。</p> </div> <p>○筆者の主張が分かる文末を確認し，筆者は何を言いたいのかをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にとって便利で誰にとってそうではないか。</li> <li>・どのような時に便利で，どのような時にそうではないのか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">考えることが大事</p> <p>○みんなと一緒に生活するうえでどのようにすることがよいかについて考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を振り返り学習問題を考えるようにする。</li> </ul>	<p>前時までのまとめ</p>
10	<p>2. GTの話をもとにメモしながら聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を表す文末は何を示しているかを文の前後から考えられるように，前時の学習までをまとめておくようにする。</li> <li>・拡大したカードを示しながら書く観点を確認できるようにする。</li> <li>・考えのまとめられない児童には，総合的な学習の時間の体験での感想をもとに意見をまとめられるように助言する。</li> </ul>	<p>⑮段落の全文</p>
15	<p>3. GTの話からこれからどんなことを考えていくことが大事かをグループ内で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで生きるために</li> <li>・相手の立場にたって，視点を変える</li> <li>・誰もが使えるもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GTの話と一緒に大事な言葉や印象付けた言葉や話の補助となる写真等を掲示するようにする。</li> <li>・GTの話で自分の考えがどのように変わっていったかを理由づけをしながら話し合わせるようにする。</li> <li>・理由づけができない時は，どこからどのように考えたのかを質問し，考えをまとめられるようにする。</li> <li>・友達の考えのよさを認めるようにする。</li> </ul>	<p>GTの話のメモ</p>
7	<p>4. 自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの心構えについて，自分の言葉でまとめるようにする。</li> </ul>	
6	<p>5. 自分の考えや感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇GTの話で筆者の主張を更に深く考え，これからの心構えについて自分の意見をまとめることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">→【情報活用能力・将来設計能力】</p>	

多古町立多古第一小学校

1. 単元名 「世界に広まった野田のしょうゆ産業」

2. 単元について

千葉県野田市のしょうゆ造りは、オートメーション化が進んではいるが、地理的な利を得て江戸時代から伝わる千葉県の伝統産業となっている。今では、海外100カ国以上に輸出されている。

この授業をとおして、しょうゆ造りが世界に誇れる産業であることを知り、地域に対する誇りと愛情を育むとともに、海外への普及にかかわってきた企業の方の思いにふれることで間接的なキャリア教育の場とすることをねらいとしたい。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 野田市の地理的・歴史的背景を知り、しょうゆ造りが地場産業として発達した経過がわかる。
- しょうゆ造りが、世界に誇れる産業であることを知り、地域に対する誇りと愛情を持つことができる。
- しょうゆを海外に普及するために、世界を舞台に活躍している人々の仕事や思いにふれる。

4. 指導計画（4時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係形成	情報活用	将来設計	意思決定
1. しょうゆ工場を見学する。	3	○	◎		
2. 世界に広まった野田のしょうゆ産業について学ぶ。	1	○	○	◎	

5. 本時の指導（4／4）

（1）本時のねらい

※単元のねらいと同じ。

（2）展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">しょうゆのなぞにせまろう！</div> 1. しょうゆ工場の見学を振り返り、しょうゆの原料が何かを発表する。	・しょうゆのできる過程を思い出させながら，確認していく。	・地図帳
7分	2. 日本でよくしょうゆが造られている地域がどこかを地図帳や資料で調べ，発表する。 ・野田      ・銚子      ・兵庫	・野田が生産量第1位，銚子が第2位であることを確認させるとともに，銚子の方が先にしょうゆ造りが始まったこともおさえるようにする。 ・野田や銚子の位置を地図で確認する。	

10分	<p>3. 銚子で一番初めにしょうゆ造りが始まったのに、どうして、野田が第1位になったのかを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆がとれたから。</li> <li>・大都市の江戸に近かったから。</li> <li>・江戸川や利根川が近くを流れていて、船で運ぶのに便利だったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野田が1位になった理由がわかるような資料を与え、一人一人が意見を持てるようにする。</li> </ul> <p>→【情報活用能力】</p> <p>◇しょうゆ造りなどの伝統産業の発展には地理的条件が大きく関係していることに気づいたか。</p> <p>→【職業理解能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しょうゆづくりに関する資料(しょうゆ会社のHP)</li> </ul>
15分	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しょうゆ博士に聞く、しょうゆの謎</p> <p>4. しょうゆ会社の方から、しょうゆの歴史やしょうゆの海外進出について話を聞く。(ビデオ映像)</p> <p>5. ビデオ映像中にあるクイズに答える。</p> <p>Q1：しょうゆは世界のどのくらいの国々で売られているのでしょうか。</p> <p>①6カ国くらい ②60カ国くらい ③100カ国くらい (正解)</p> <p>Q2：アメリカでしょうゆを広めるために、キッコーマンはスーパーマーケットでどのような活動をしたのでしょうか。</p> <p>①刺身にしょうゆをかけて味見してもらった ②ご飯にしょうゆをかけて味見してもらった ③焼いた肉にしょうゆをかけて味見してもらった (正解)</p> <p>Q3：努力の結果、アメリカで最も定番になったしょうゆを使った料理は何でしょうか？</p> <p>①ビーフシチュー ②鶏の唐揚げ ③肉のテリヤキ (正解)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳を広げさせて、友達同士意見交換しながら、楽しくクイズに臨めるように配慮する。</li> <li>・しょうゆが肉に合うことをわかってもらえるようにスーパーマーケットの店頭で試食してもらったり、その国に合ったメニューの開発に心がけてきたりしたことをとらえさせる。</li> </ul> <p>◇千葉県には世界に誇れるすばらしい伝統産業があることに気づいたか。</p> <p>→【職業理解能力】</p>	
5分	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しょうゆを味わってみよう！</p> <p>6. 伝統的な方法で造られているしょうゆを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班にしょうゆの入った皿と海苔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野田のしょうゆ会社で今でも伝統的な方法で日本の大豆を原料として造られているしょうゆがあることを知らせ、伝統的な手法についての資料を配付する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しょうゆ</li> <li>・海苔</li> <li>・伝統的な手法に関する資料</li> </ul>
5分	7. 授業の感想を書く。		

協力企業：キッコーマン株式会社

★本文内の資料については、NPO法人企業教育研究会にお問い合わせください。

(Tel) 043-308-7229 (E-Mail) info@ace-npo.org

1. 主題名 「自分のために みんなのために」 4－(4)

資料名 『多古町情熱人シリーズ2 人の喜ぶ笑顔が見たくて』 自作資料

2. 主題について

本主題は、学習指導要領内容項目4「主として集団や社会とのかかわりに関すること。」の(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。」ことをねらいとしている。

この時期の5年生は思春期に入り、様々なことで思い悩む時期である。自分の将来の職業についても夢や希望を持ってはいるが、「実現は困難だ。」といった現実的な考えも頭をかすめてしまい、それが漠然とした不安や悩みになると同時に、夢の実現への意欲が停滞してしまう。現代社会では、自分の生き方の選択に躊躇するあまり、ニートやフリーターになってしまう若者の増加が社会問題化している。このようなことから、5年生のこの時期に、特に勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会に役立つことができるように指導することはとても大切なことである。さらに、勤労は自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることをしっかりと理解し、社会への奉仕活動など、公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるようにしていくことが求められる。そのことから得られる喜びを基に、社会に奉仕する心構えをしっかりと育てていかなければならない。そこで、本町在住の人物を題材として取り上げ、より身近に、具体的にこの価値について考えていけるよう本主題を設定した。

5年生の国語科学習『情報を正確にとらえよう』では、自分の伝えたい事柄をはっきりとさせながら、わかりやすく相手に伝える学習をする。そして、それを生かしながら、総合的な学習の時間では、『おいしい米を追究しよう』というテーマで、米やおにぎりについて自分達で調べたことを、グループ内や学年全体に興味を持って読んでもらえる資料作りを行う。ここでは、「工夫には、限りがない。」といったことを実感すると同時に、「読み手のために全力でわかりやすさを追求する意識」を啓発していく。そしてこれらと関連させながら、本時の道徳で「広報誌作りに尽力を尽くした林昌憲氏」について学習し、「他者に貢献する姿勢」にしっかりと気づいていけるようにし、「役割把握・認識能力」及び「協力獲得・プロジェクト遂行能力」を高めていく。

また、特別活動では、友達のよさを賞賛するためのワークシート(名称「情熱シート」)を使って、一人一人のよさを全体で認め合い、望ましい人間関係作りや自己有用感の獲得を行いながら、互いを高め合う活動を行っている。その活動を本時でも活用し、「情熱」をキーワードに登場人物の思いや考え、生き方を積極的に感じ取る場を設けることで、より深い共感が得られるようにしていく。

このように各教科の学習を連携させ、より深い理解と共感をし合う活動を行うことでキャリア発達を効果的に促していく。

3. 本時の指導（○教科のねらい，●キャリア教育のねらい）

(1) 本時のねらい

- 働くことの意義を理解し，公共のために進んで役立とうとする心情を育てる。
- 自分たちで係や当番の役割を考え，責任を果たそうとする。
- 仕事における役割の関連性や変化に気づく。
- 思いやりの気持ちを持ち，相手の立場に立って考え行動しようとする。
- 集団の中で役割と責任を果たそうとする。

(2) 展開（60分）

時配	学習内容と活動	期待する児童の反応	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
2	○本時の登場人物(情熱人)を確認する。		・音楽とともに情熱人が登場する動画を活用し，一人一人がしっかりと登場人物を把握していけるようにする。	プロジェクター
18	○『人の喜ぶ笑顔が見たくて』を読み，解説を聞く。		・写真等を活用することで，内容を視覚的にとらえ，より深く理解できるようにする。	写真 イラスト
18	○林勝美さんの話を聞いて，話し合う。 ・林昌憲さんについて心に残ったこと何ですか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・なぜ林さんはこんなに努力しているのだろう。</div> ・少人数グループで話し合う。  ・全体で話し合う。	・とても努力している。 ・すごい。 ・自分の仕事に情熱を持っている。  ・仕事が好き。 ・人に喜んでもらいたいのだと思う。	・自席を離れゲストティーチャーの間近で話を聞く場を設けることで，表情や仕草を細かくつかみながら集中して話を聞くことができるようにする。  ・少人数で話し合う場を設けることで，一人一人が自分の思いや考えをつかめるようにするとともに，全体の話し合いで自信を持って発表していけるようにする。 ・児童が共感や感動のつぶやきを発した場合はそれを大切にし，全員に紹介することで，林昌憲さんへの思いをより深められるようにしていく。	





1. 単元名 「快適な住まい方を考えよう」

2. 単元について

家庭生活の様式はさまざまであり、時代によって変化していくものである。しかし、家庭科教育の根底に流れている「よりよい生活を目指そう」「家族との関わりを大切にしよう」「生活に生きて働く実践力を身につけよう」という考え方はいつの時代も変わらない。

本単元は前単元の「掃除の工夫」で学習してきた気持ちのよい住まい方を、さらに発展させたものである。児童自ら学習に取り組みながら確かな知識と実践力が身に付くように、企業教育研究会（ACE）と連携を図り、ゲストティーチャーを招いて問題解決的な学習を進めていくこととした。

快適に住むための工夫としては「安全性」「健康の保持」「家族の生活」「地域の環境」などいくつもの要素が考えられる。その中でも日本の国土事情にとって必要な「地震対策(安全性)」や世界的な問題である「環境」についても触れていきたい。ただし、専門的な事柄が多くなってしまふ恐れもあるので、子どもたちにとって身近であるとともに学習のしやすさなどを考慮して「明るさ」「あたたかさ」「風通し」の3つの要素を基本として考えることにする。

発表の形式は同じ課題をもったグループ発表とする。始めに子どもたちから、快適に住むための条件や工夫を出させる。次に、現状の問題点をどのように解決できるのかを調べ、グループの創意工夫のもと、1グループ4分程度にまとめて発表させたい。ただし、調べたことをそのまま発表するのではなく、簡単な実験をするなどデモンストレーションを取り入れた発表を考えている。そして、その発表についてゲストティーチャーにコメントを頂いたり、質問をしたりする。こうした活動を通してゲストティーチャーと関わりながら、快適な住まい方を理解し、考えることで、実生活の中を少しでも快適な生活にできるようにしていきたい。

キャリア教育の視点から見ても、自らの課題を探し、その課題を追究し、発表することは意思決定能力及び人間関係形成能力、情報活用能力を育むことができる。また、「30年後のマイホームを設計しよう」という小単元を加えることで、将来の生活をイメージしながら自己の課題を見つけ、それにより将来設計能力を高める内容とした。さまざまな場面で多様な角度からキャリア教育を進めるには効果的な単元である。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 日常の住まい方に関心を持ち、気持ちよく居心地のよい住まい方をしようとする。
- 快適に住むために計画を立て、自分なりに工夫し生活に生かそうとすることができる。
- 「暖かさ、明るさ、風通し」などから、自分の課題を持ち快適な住まい方を追求することができる。
- 家族が楽しく気持ちよく過ごすための住まい方の工夫が分かるようにする。
- 快適な住まい方について働いている人から話を聞いたことを生かすことができる。
- 自分の将来を考えながら快適な住まい方について考えを深め、その考えを発表することができる。
- 自ら課題を見つけ、意欲的に身近な生活の課題を解決しようとするすることができる。
- 働いている人の生き方を知ることができる。

#### 4. 指導計画（10時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
住まい方を見てみよう（本時A）	1	◎	○		
30年後のマイホームを設計してみよう	2		◎	◎	○
課題を決めて、調べよう	4	◎	◎		○
発表の練習をしよう	2	◎	○		◎
発表しよう（本時B）	1	◎	○	○	◎

#### 5. 本時の指導（1 / 10 [A], 10 / 10 [B]）

##### (1) 本時のねらい[A]

- 「快適な住まい方」に必要な3つの要素について知る。
- 「快適な住まい方」のための工夫について知る。
- ゲストティーチャーから出題された問いについて考えることにより、本単位についての興味関心を高める。

##### (2) 展開[A]

時配	学習内容と活動	・支援、指導上の留意点 ◇評価	資料等
5分	1. 学習の課題を知る。 快適に住むためのくふうについて考えよう。	・ゲストティーチャーを紹介する。	
10分	2. 「快適な住まい」とはどのようなものかを考え、発表する。 〈例〉・明るい ・掃除がしてある ・広い ・夏、涼しい	・心情的、体感的な要素の両面がでるようアドバイスする。 ・どの意見も大切に扱う。 ・ゲストティーチャーから感想をもらおう。	
10分	3. 4枚の写真から、工夫されている点を探し、発表する。 [玄関の水道、居間の作り、キッチン、クローゼット]	・「もの」と「気持ち」が通じていることに気づかせたい。 ・なぜ、工夫が必要なのか考えさせる。	ワークシート プロジェクト
10分	4. 「快適な住まい方」について話を伺う。	・専門的にならない範囲で、「明るさ、暖かさ、風通し」を中心に説明していただく。 ◇ゲストティーチャーから話を聞くことで、人の思いを考えることができ、質問するなどして関わることができたか。→【コミュニケーション能力】【情報収集・探索能力】	ー
10分	5. 住まいの悩みに関する事例を聞き、解決法を考える。	・自分の課題と関連づけさせる。	

### (3) 本時のねらい[B]

- 発表を通して快適な住まい方に関心を持ち、今後の生活に生かせる点を見いだす。
- 「快適な住まい方」の発表をすることにより、発表力を高めるだけでなく、自分の将来のイメージをもつ。
- ゲストティーチャーの仕事を知ることにより、将来設計への参考とする。

### (4) 展開[B]

時配	学習内容と課題	・支援, 指導上の留意点 ◇評価	資料等
2分	1. 本時の学習課題を知る。 課題について調べたことを発表しよう。	・ゲストティーチャーに挨拶する。 ・「快適な住まい方」の3つの要素を確認する。	
25分	2. 発表する。(4グループ) 【実演内容】 「明るさ」…白色電球と黄色電球の違い 「あたたかさ」…グラスウールの保温性の実証 「風通し」…窓の位置や数で変わる煙の流れ 「環境・安全」…筋交いの有無による強度の違い  「30年後のマイホーム」は、3人程度で、個人発表。 ・レゴブロックで家を制作 ・ペーパークラフトで家を制作 ・パソコンで家の設計	・評価カードは、発表の準備の間に記入する。 ・グループの発表時間は4分程度で、役割を果たせるように支援する。 ・「30年後のマイホーム」は個別発表となる。人数は3人とし、一人1分程度の発表とする。 ・発表に関する質問はグループごとに受け付ける。 ◇友達のよい考えを認め、自分の役割を果たして、みんなの前で発表することができたか。 →【課題解決能力】【選択能力】【自他の理解能力】	評価カード 拡大投影機 プロジェクター 実演用の道具 (水槽, グラスウール, 線香, 白色電球, 黄色電球他)
6分	3. ゲストティーチャーからコメントを頂き、説明を受ける。	・発表や説明から学んだことを実生活に生かせるようにうながす。	
4分	4. ゲストティーチャーから仕事に関することや人生グラフを通しての話を聞く。	◇働く意義や思いを知ることができたか。→【職業理解能力】 ◇人生はさまざまで、良い時や悪い時があることを知ることができたか。→【情報収集・探索能力】	人生グラフ
8分	5. 評価カードにまとめ、授業の感想を発表する。	・今までの発表との違いに気づかせたい。 ・発表を聞いて30年後のマイホームの手直しする点を考えさせる。 ◇よりよい住まい方を目指して、自らの課題発見の大切さを知ることができたか。→【課題解決能力】	

柏市立柏第三小学校  
協力企業：積水ハウス株式会社

1. 単元名 「電磁石のはたらき ～最強の電磁石をつくろう～」

2. 単元について

本単元では、エナメル線で電磁石をつくり電磁石の強さやはたらきを学ぶことが多いが、電磁石がどんなところに活用されているのか、自分たちの生活と関係付けて考える機会は少ない。しかし、電磁石は例えばモーターなどに使用されており、モーターは子どもたちの身近なところでも数多く使用されている。

そこで、本単元では、授業の導入として製品（電動歯ブラシ）を分解し、モーターを取り出す活動を取り入れる。さらに、モーターを分解し、コイルが巻かれていることに気づかせる。また、モーターを製作している企業の方をお招きして、様々な製品に使われているモーターを紹介することで、電磁石に興味・関心を持たせたい。さらに、授業の最後には、子どもたちが製作した電磁石とプロが製作した電磁石を比較させることにより、モーターを製作する企業の技や仕事内容、仕事への思いなどにも興味・関心を持たせたい。

3. 単元のねらい（○教科のねらい、●キャリア教育のねらい）

- 電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象や電磁石を利用した製品を分解する作業をとおして興味・関心を持ち、電流の働きを調べようとする。
- 電磁石の強さと電流の強さや導線の巻き数、電磁石の極の変化と電流の向きを関係づけて考えることができる。
- 電磁石の強さの変化を調べ、定量的に記録し、電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻き数によって変わることを理解する。
- 電磁石と実生活とのつながりを考えようとしたり、モーターを製作する企業の技や仕事内容、仕事への思いに興味・関心を持ったりすることができる。
- ゲストティーチャーと積極的にコミュニケーションをとることができる。

4. 指導計画（13時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時 配	育成が期待できる能力			
		人間関係形成	情報活用	将来設計	意思決定
1. 製品を分解してみよう（本時） ・製品（電動歯ブラシ）を分解し、モーターを取り出す。さらに、モーターを分解してコイルと磁石をとりだす。	2	○	◎		
2. 電磁石のはたらきを調べよう ・エナメル線で電磁石をつくり、電磁石の性質や働きを調べる。	2		○		
3. 電磁石の極を調べよう ・方位磁石を使って電磁石の極の変化と電流の向きを調べる。	2		○		
4. 電磁石を強くするにはどうしたらよいか調べよう ・電磁石を強くする要因を調べる。	2		○		
5. 最強の電磁石をつくろう（製作） ・電磁石製作のルールについて確認し、製作する。 電池……単3を1本 エナメル線の太さ……0.4 mm、0.8 mm エナメル線の長さ……1.2m	3		○		

鉄心……………学校側で各種用意 巻き数や巻き方……………各グループで工夫					
<b>6. 最強の電磁石をつくろう（発表）</b> ・ 児童の製作した電磁石や講師の製作した電磁石の発表 ・ モーターの製作に携わる方のお話	2	◎	○	○	○

## 5. 本時の指導（1・2 / 13）

### （1）本時のねらい

- 電磁石を利用した製品を分解する作業をとおして、電磁石の働きについて興味・関心を持ったり、電磁石と実生活とを関係付けて考えようとしたりする。

### （2）展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
5分	1. 本時のねらい ・ ねらいの説明や講師の紹介を聞く。	・ 講師…モーター製作会社	
20分	2. 導入 ・ どんなどころにモーターが使われているか考え，発表する。 おもちゃ，扇風機，携帯電話など	・ 児童が考えたものを発表させ，板書する。	
20分	3. 製品の分解 ・ 児童から意見が出た製品の一つを分解してみる。 ・ 電動歯ブラシを分解し，どこにモーターが使われているか確認する。 ・ 分解後，組み立てまで行う。	・ 電動歯ブラシやペンチを2人に1つずつ配布する。 ・ 講師は児童に適宜アドバイスなどを行う。	・ 歯ブラシ ・ ペンチ
20分	4. モーターが使われている場所の確認 ・ 歯ブラシ以外にモーターが使われている場所を紹介する ゲーム機，デジタルカメラ，CD，ドライヤーなど  ・ さらに，分解したゲーム機や携帯電話について講師の説明を聞く。	◇電磁石と実生活の関わりについて理解できたか。 →【職業理解・コミュニケーション能力】	・ プレゼン資料→製品の中でモーターが使われている場所
20分	5. モーターの分解 ・ 製品に使われているモーターの分解を行う。 ・ ワークシートに記入する。	◇電磁石と実生活の関わりについて理解できたか。 →【職業理解・コミュニケーション能力】	・ ワークシート
5分	6. まとめ ・ 地域の大人に「何のために働くのか」「働くために必要な能力」について聞く。	◇「働く目的」「働くために必要な能力」について理解できたか。 →【職業理解・コミュニケーション能力】	



「写真1 モーターがある場所」

協力企業：マブチモーター株式会社

★本文内の資料については，NPO法人企業教育研究会にお問い合わせください。

(Tel) 043-308-7229 (E-Mail) info@ace-npo.org

## 小学6年生による「ゆめ・仕事びったり体験」事業

### 1. 「ゆめ・仕事びったり体験」事業について

「ゆめ・仕事びったり体験」は、公立小学校の6年生による就業密着観察学習として、千葉県独自に平成17年度から取り組んでいる事業である。

本事業は、いわゆるフリーターやニートの増加が社会問題になっていることを背景として、小学校の段階から子どもたちに適正な勤労観・職業観を育てていくことを目的としておこなうものである。

小学生が働く大人に密着し、仕事に取り組む姿勢を観察したり、大人との会話を通じて仕事への熱意を感じ取ったりすることで、自分の将来の仕事や、学校で学ぶことの意味などについて考える機会とすることをねらいとしている。

### 2. 「ゆめ・仕事びったり体験」事業におけるねらい

本事業には、以下の3つのねらいがある。

- 事業所等において、働く大人に密着し、仕事に取り組む姿勢を観察する。  
→ 見て学ぶ（観察）
- 働く大人との会話を通じて仕事への熱意を感じ取る。  
→ 聞いて学ぶ（コミュニケーション）
- 自分の将来の仕事や、学校で学ぶことの意味などについて考える。  
→ 触れて学ぶ（生き方）

### 3. 「ゆめ・仕事びったり体験」事業の進め方

#### (1) 「ゆめ・仕事びったり体験」についての研修

- ねらいや進め方、学習内容について研修する。

#### (2) 受入事業所の選定

- 同じ地域の中学校の職場体験を受け入れている事業所を調べる。
  - ・ 中学校のキャリア教育担当者と連携を図る。
- 小学生の体験学習にふさわしい事業所を検討する。
  - ・ 学校近辺の事業所が望ましい。
  - ・ 小学生にも可能な職場体験の内容がある事業所が望ましい。

#### (3) 受入事業所の決定

- 体験内容や受入日時、人数等について事業所と折衝し、受入先を決定する。
  - ・ 小学生の「ゆめ・仕事びったり体験」は、発達段階や約半日（2～3時間程度）の実施であることから観察中心の学習であるが、小学生でもできそうな職場体験を少しは取り入れてもらえるようお願いする。
  - ・ 受入時間は午前、午後のいずれかで2～3時間程度。人数は4、5人程度。

#### (4) 「ゆめ・仕事びったり体験」における学習内容等の検討

- 3つのねらいにせまることができるような事前学習・体験学習・事後学習の内容について検討する。
- 教科や特別活動、総合的な学習の時間等の年間指導計画の中に、これらの学習をどのように位置づけるかを検討する。

#### (5) 「ゆめ・仕事びったり体験」における実施計画の立案及び実践

##### ① 事前学習

- 「ゆめ・仕事びったり体験」のねらいについて説明する。
- 事業所の選択を行わせ、事業所ごとにグループをつくる。

- 「ゆめ・仕事ぴったり体験」までに、(4)で検討した学習内容について、意図的、計画的に実施し、事後への学習にもつながるようにする。
- 事業所での体験の仕方やマナーなどについて学習させる。

## ② 体験学習（観察中心）

- 受入事業所ごとに、タイムスケジュールや体験内容（観察中心）などの体験プログラムを作成及び実施する。

## ③ 事後学習

- 「ゆめ・仕事ぴったり体験」後に、事前学習や体験学習を受け継ぐ形で事後学習を進め、ねらいに到達できるようにする。

## (6) その他

- 事業所への御礼や来年度以降の受入のお願いをする。

## 4 「ゆめ・仕事ぴったり体験」事業における学習内容

### (1) 見て学ぶ（観察）

仕事に取り組む姿勢を観察するというねらいから、具体的な仕事の内容や工夫等について“見て学ぶ”という学習が必要となる。仕事を観察して、“見て学ぶ”ことができるようにするためには、観察能力を高める学習を事前に行わなければならない。

そこで、以下のような「ゆめ・仕事ぴったり体験」における観察能力を高める授業プログラムを実施することが望ましいと考える。

#### ＜「ゆめ・仕事ぴったり体験」観察能力向上プログラム＞

1. 本時のねらいを理解する。
  - 受入事業所の仕事の内容や工夫について発表会を行うので、これらを観察する能力を高めることをねらいとした授業を行うことを伝える。
2. ビデオ教材（A）を視聴する。（1回目）
  - コンビニエンスストアで働く大人の仕事を撮影したビデオを見させる。
3. ビデオ教材（A）を視聴する。（2回目）
  - ビデオ視聴後、コンビニエンスストアの仕事の内容について発表し合うことを事前に知らせてからビデオを見させる。
4. ビデオ教材（A）からわかる仕事の内容について話し合う。
  - 話し合う前にワークシートに仕事の内容を細かく分けて書かせる。
5. ビデオ教材（A）を視聴する。（3回目）
  - ビデオ視聴後、仕事する上で工夫しているところを発表し合うことを事前に知らせてからビデオを見させる。
6. 仕事上での工夫について話し合う。
  - 話し合う前に仕事の内容それぞれにおける工夫について書かせる。
7. ビデオ教材（A）の続きを見て、話し合った内容を確認する。
  - ビデオに出演していただいた方による仕事の内容や工夫についての説明を見て、話し合った内容が正しかったかどうか確かめる。

### (2) 聞いて学ぶ（コミュニケーション）

仕事への取り組み等について理解するには観察だけで難しい。実際に働く大人から“聞いて学ぶ”ことによって、仕事への取り組みについて理解が図られたり、仕事への熱意を感じ取ったりすることができるものと考えられる。

このように、“聞いて学ぶ”にはコミュニケーション能力を向上させる学習を事前に行う必要がある。

そこで、以下のような「ゆめ・仕事びったり体験」におけるコミュニケーション能力向上の授業プログラムを実施することが望ましい。

もちろん、国語や他教科等においてもスピーチや話し合い活動を通してコミュニケーション能力の向上を継続的に図っていくことは言うまでもない。

＜「ゆめ・仕事びったり体験」コミュニケーション能力向上プログラム＞

1. 本時のねらいを理解する。
  - 働く大人の様子を観察するだけでは仕事の内容や工夫がわかりづらいことから、インタビューによってこれらのことを理解する能力を高めることをねらいとした授業をおこなうことを伝える。
2. ビデオ教材（B）を視聴する。（1回目）
  - 料理店で働く大人の仕事ぶりを撮影したビデオを見させる。
3. ビデオ教材（B）を視聴する。（2回目）
  - ビデオ視聴後、料理店の仕事の内容や工夫について発表し合うことを事前に知らせからビデオを見させる。
4. ビデオ教材（B）からわかる仕事の内容や工夫について話し合う。
  - 話し合いは短時間で終わるようにインタビューに時間をかけるようにする。
5. 話し合った内容を確認するためのインタビューの仕方について考える。
  - 実際に「ゆめ・仕事びったり体験」に行ったときには、自分で質問していかないと仕事の内容や工夫についてはわからないことに気づかせる。
  - 料理店の仕事の内容や工夫についての質問事項を考えさせる。
  - 実際に事業所でインタビューするときの方法やマナーについて考えさせる。
6. インタビューの練習をする。
  - 保護者や地域の方に料理店で働く大人役になってもらい、インタビューの練習の相手になってもらうようにする。

### (3) 触れて学ぶ（生き方）

自分の将来の仕事や、学校で学ぶことの意味などについて考えるというねらいを達成するには、実際の体験も必要であると考え。仕事への取組について観察したり、インタビューしたりするだけでなく、実際に受入事業所の方と同じ仕事を体験したりすることによって仕事の大変さや面白さについて実感を伴った理解ができる。

さらに、事前や事後の学習において、将来どのような意識を持って働いたらよいのか、また、そのためには学校でどのような能力を身につけていけばよいのかという考えに至るような手立てを講じればねらいに迫ることができるものとする。

具体的には、事後学習で「ゆめ・仕事びったり体験」発表会や「ゆめ・仕事びったり体験」感想文集などに取り組み、その中で、働く意識や仕事をするために必要な能力等について考えさせる機会を持たせることが望ましい。

また、このように児童が考えたことについて、受入事業所の方からコメントをもらうという形でフィードバックがあるとさらに望ましい。

### (4) その他

受入事業所でのあいさつや振る舞い等マナーについて、実際にシミュレーションするなど必要に応じて行うとよい。

★本文内の資料については、NPO法人企業教育研究会にお問い合わせください。

(TEL) 043-308-7229 (E-Mail) info@ace-npo.org



1. 単元名 ちびまんの作り方を教えよう

2. 単元について

本単元「ちびまんの作り方を教えよう」は、簡単なおやつ作り方を知らせ、一緒に作る活動を楽しむ中で児童がよりよいかかわりができるようになってほしいと願うことから計画した単元である。

児童は、昨年度2年生から6年生の全学級の児童や自分の家族（祖母・母親）を招いてポップコーンお料理教室を開き、ポップコーンの作り方を知らせて一緒に作る活動を経験している。1年生や体験学習でお世話になった八日市場特別支援学校の友達には、作ったポップコーンを一人ひとりに手渡してプレゼントした。何度もポップコーン作り教室を繰り返すことにより、自信を持って作り方を知らせたり一緒にかかわりながら作ったりすることができるようになってきた。

そこで、今年度は、昨年度の経験を生かして、児童が興味を持っている野菜の調理と結びつけ、体育や音楽で交流している1年生でも簡単にできるおやつ作りを通して、児童がさらに自信を持ってかかわりがもてるようになってほしいと考えている。1人でもわかりやすく作り方を知らせ、なかよくおやつ作りに取り組めるようにしたい。そして、1人でできたという達成感やかかわる喜びを味わわせ、自立心を養う基礎となるようにしたい。

1年生を招いてちびまん作り教室を開く。教える立場に立つことで自分の役割や存在感を感じることができる。また、自信を持って作り方を伝え、一緒に作ることによりコミュニケーション能力を養っていくことを重点に支援していきたい。

3. 単元のねらい（○教科のねらい ●キャリア教育のねらい）

- ちびまん作り教室を開くために意欲的に準備をすることができる。
- 1年生にちびまんの作り方を知らせ、なかよく作ることができる。
- 1年生と一緒になかよく活動できる。
- 経験を生かして活動できる。
- おやつ作りを教えるための準備や片づけができる。
- 自分で作り方を教えようとする。

4. 指導計画（14時間扱い）

主 な 活 動 内 容	時 配	育成が期待できる能力			
		人間関係 形成	情報活用	将来設計	意思決定
○ちびまんの作り方を知り、「ちびまん作り教室」の計画を立てる。 ・試食をする。 ・材料と作り方を知る。 ・調理をする。 ・ちびまんの作り方を教える計画を立てる。	1		○		

○店で買う材料を確認し，買い物に行く。 ・必要な品物の名前を書く。 ・メモをもとに買い物をする。	3	○	○		
○ちびまんの作り方をわかりやすく説明できるようにレシピを作る。 ・写真を見ながら，材料の名前を言う。 ・作り方の順に写真を並べる。 ・材料の名前や手順のポイントを書いた文字を丁寧になぞる。	2		◎	○	
○中に入れる具を作る。 ・いんげん豆を茹でて，みじん切りにする。 ・ウインナーをみじん切りにする。 ・竹の子のみじん切りを加えていため，味つけをする。 ○できた具を入れてちびまんを作る。	2		○		○
○ちびまん作り教室を開く。 ・招待状を書いて手渡す。(前日) <活動順序> ①おやつ作りの準備をする。 ②招待する友達を呼びに行く。 ③レシピを指し示しながら，作り方を話す。 ④実演しながら，ポイントを話す。 ⑤できたちびまんを一緒に食べる。 ⑥友達を見送る。 ⑦片づけをし，振り返りをする。	5 (本時)	◎			○
○畑の先生(祖父)を招いて，活動を振り返る。 ・ちびまんを作って一緒に食べる。 ・楽しかったことやがんばったことを話す。	1	◎		○	

## 5. 本時の指導 (11 / 14)

### (1) 本時のねらい

○1年生の友達にちびまんの作り方をわかりやすく教え，なかよく作ったり食べたりすることができる。

### (2) 展開

時配	学習内容と活動	・支援，指導上の留意点 ◇評価	資料等
10	1. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">1年生の友達に，ちびまんの作り方をわかりやすく教えよう。</div> 2. 材料や用具の準備をする。 ・レシピを黒板に貼る。 ・生パン粉・牛乳・具をそれぞれ人数分揃える。	・招待状を出した6人の友達の名前を確認する。  ・人数分の材料をなるべく1人で揃えられるように，写真や並べ方の絵をテーブルに置く。	子どもの写真 レシピ 指示棒

3 5	3. 招待する友達を呼びに行く。 4. 材料と作り方の説明をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計量は教師が行い、児童が配置するようにする。</li> <li>・大きな声で話すことができるように励ます。</li> <li>・材料や作り方の手順をわかりやすくするために掲示物を指しながら大きな声で話すとよいことを確認する。</li> <li>・とまどっている場合は、言葉の一部をヒントとして言い、よく話せたときにはうなずいて認め、安心感がもてるようにする。</li> </ul>	電子レンジ 耐熱皿 紙皿 手袋 カップ 計量スプーン トレイ おしぼり 生パン粉 牛乳 竹の子
10	5. ちびまんを作る。 ・実演しながらポイントを話す。	<p>◇大きな声で説明することができる。 →【意思決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生面に気をつけることを確認する。</li> <li>・短い言葉でもポイントを話すことができたら大いに褒める。</li> <li>・実演をよく見ながら同時に作るように1年生に声かけをする。</li> <li>・電子レンジのスタートボタンは児童が押すようにし、出来上がったおやつを取り出すのは、熱いため教師が行なう。</li> <li>・やけどをしないように手袋を使用して配るようにする。</li> </ul>	インゲン ウインナー ラップ ようじ エプロン 三角巾
7	6. 試食をする。 ・感想を聞く。	<p>◇なかよくちびまん作りができる。 →【人間関係形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生には、シールを貼ったり声をかけたりしてもらい児童のがんばりを認める。</li> <li>・使用する用具は、児童が処理しやすいものを用意する。</li> <li>・次に招待する友達の写真と名前を確かめ、意欲付けを図る。</li> </ul>	振り返りカード 招待状
10	7. 招待した友達を見送る。 8. 片づけをし、本時の学習を振り返る。	<p>ちびまんのつくりかたをおしえよう。</p> <p>しょうたいしに おともだち</p> <p>つくりかたはわかりましたか？</p> <p>おいしかったですか？</p> <p>① お家で今一度お話をしなさい</p> <p>② なかよくちびまんがっけられたかな？</p>	